

まんのう町教育委員会だより

# 爽そうふう風

Vol. 31

令和4年【2022】  
6月1日 発行

子どもの健やかな成長を願って

特集

縦のつながりが育むもの



## Contents

P.2 まんのう町学校教育実践指針  
P.3 春—— 出会いと別れ

P.8~9 園・学校ウォッチング  
仲南小学校・四条こども園

P.10 シリーズ「声」  
P.11 関係機関から

# 春 出合いと別れ

## 6年生を送る会



各校ともそれぞれの学年が工夫して、6年生との最後の楽しい思い出を作りました

## 卒業式・修了式



式場に入れなかった在校生はオンラインで参列

進学先でも佳き出合いがたくさんありますように

## 町合同離任式

(3月31日 満濃中学校ランチルーム)  
子どもたちが大変お世話になりました



## 町合同着任式

(4月1日 満濃中学校ランチルーム)



『子どもファースト』で  
よろしく願っています

## 入学式・入園式



新入生は6年生と一緒に入場しました

教科書、通園・通学帽をいただきました

楽しく充実した園・学校生活を送りましょう!



## 令和4年度 まんのう町学校教育実践指針

まんのう町は  
自立へ向かう教育を  
推進しています

## 今年度の重点

- 1 社会に開かれた豊かな教育課程を編成し、特色ある園や学校をつくります
- 2 子ども心に温かく寄り添い、一人ひとりが安心して楽しく過ごせる園や学校にします
- 3 学びの質を高める保育や授業の実現に努めます
- 4 地域と協働して子育てにあたります



一人ひとりに応じて適切な支援を

読書を楽しむ子どもに

ふるさとに誇りや愛着を持つ子どもに

ICTを効果的に活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」をめざして

※「学校教育実践指針」は、各こども園や学校がそれぞれ特色ある園・学校づくりを行っていく上で共通の基盤となるものです。教育委員会が年度初めにこれを提示することで、町内の園や学校は、同じ目標に向かって教育を推進することができます。

## 新教育長より

### 就任のあいさつ



まんのう町教育委員会教育長 井上 勝之

4月1日付けで教育長を拝命しました井上でございます。その職責の重さを実感し、身の引き締まる思いです。

私は、昨年3月に満濃中学校長を退職するまで、長年、学校教育に携わってきましたが、教育現場で一番大切にしてきたことは、子どもの気持ちに寄り添うということです。これからも、教育課題に正面から向き合い、子どもファースト、住民ファーストの視点で教育行政の推進に取り組んでまいります。

現在、人口減少など社会構造の変化や、AI（人工知能）などの技術革新により、私たちの生活は大きく変わろうとしています。その変化は加速度を増す一方であり、さらに、新型コロナウイルス感染症の影響も加わって、将来の予測が困難な時代になりました。子どもたちには、自ら課題を見つけ学び続ける力や困難を乗り越えるたくましさ、さらには、他者と協働しAIにはない感性や創造性を発揮して新しい価値を創り出していく力を身につけることが求められています。

昨年度より教育のICT環境の整備が一気に進み、学校は新たなステージへと移行しました。将来、子どもが自立して豊かな人生を送ることができるよう、こども園（保育園）、小学校、中学校が相互に連携しながら、その基礎となる力を育てていきます。また、人生100年時代を迎え、誰もが、いくつになっても学び直し、必要な力を身につけ、それを地域社会の中で発揮できることを大切にします。

町民の皆様から「子育てするならまんのう町」「まんのう町で学ぶことができよかった」と言っていたいただけるよう、関係機関との連携を図りながら、学校教育、社会教育の充実とその環境整備に努力してまいります。

皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、就任に当たってのあいさつといたします。



右・左・右を確かめて、  
気をつけて渡るよ

6年生の言うとおりにすれば大丈夫！  
～交通安全教室～



こんなふうに、  
しっかり腕を伸ばして

動きのポイントは？  
～運動会に向けてラジオ体操の練習～



大丈夫！  
一緒にやってみよう

できるかな？  
～6年生作成のたし算プログラムに挑戦～

「社会性」は、子どもに育みたい大切な力の一つです。一言で言えば、「人とうまくかわっていく力」と言えるでしょう。ところが、最近の子どもは、この「社会性」を自然に身につけていくことが難しくなっていると言われます。それは、なぜでしょうか。かつて子どもたちには、学校から帰ると近隣で集まる仲間集団がありました。それは、次のような特徴を持っています。

- 「遊び」が目的  
遊びたい、遊ぶのが楽しいという、ただそれだけの目的で集まっています。
- 楽しんで役割を担う  
楽しく遊びを続けようとする、自然にルールや役割分担が生まれます。一人一人がそれを果たすことで遊びはより充実し、ルールや役割の大切さも実感されるのです。
- 役割が移りつつ、続いていく  
お世話される側からする側へと役割が移りつつ、集団は続いていきます。どの子どももみな、成長とともにリーダーの役割を担います。

きょうだいや近所の子どもたちが混ざり合っただけで、大きい子は小さい子をいたわり、守る。小さい子は大きい子の言うことを聞き、一緒に遊んで

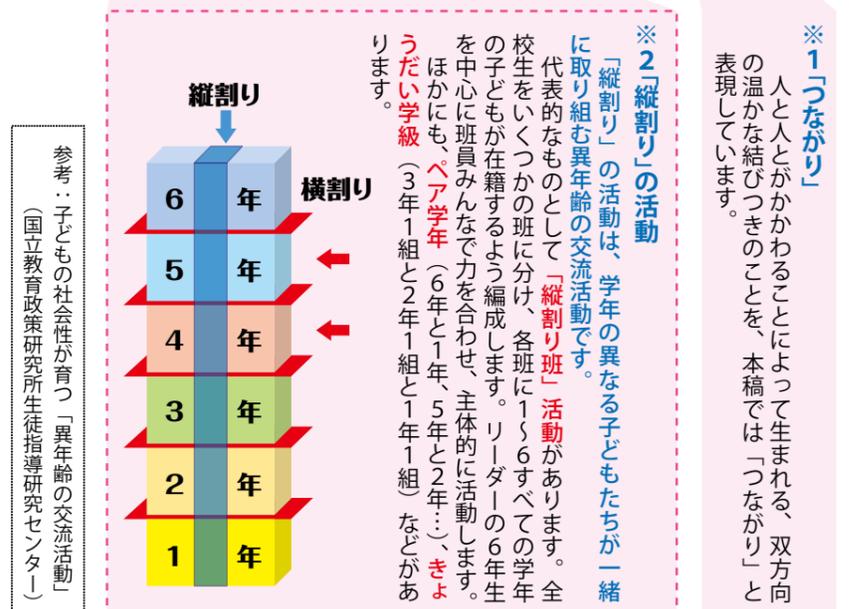
もらう。そこから、知らず知らずのうちに社会性は育まれていきました。そしてそれは、いつも親や親戚、近隣の人たちの温かいまなざしに見守られていたのです。

ところが、このような家庭・地域でのつながり※1は、時代とともに姿を消していきました。少子化により、きょうだい、地域の子どもの数は減少、近所や親戚とのつきあひも、希薄になりつつあります。学校も同じです。少子化に伴って学校の規模は縮小し、単学級（学年に学級がひとつしかないこと）が増えました。

少し前までは、子ども同士のかかわりは、学年や学級を単位とする同い年同士——つまり「横割り」がほとんどでした。子ども数が多いうちは、その中でさまざまなかかわりが生まれ、そこから十分社会性が育まれていったのです。

ところが、規模が縮小し単学級になると、いつも同じ、少ないメンバーの中で横のかかわりは固定化し、貧弱なものになっていきました。

そこで生まれたのが、「縦割り」の活動※2です。これは、自然に任せていたのでは望まなくなつた豊かなかわりを意図的につくり出すとするもので、主に小学校を中心に取り組まれています。



特集

縦のつながりが育むもの



## こども園

こども園では、0～5歳児の子どもが生活しています。この時期の子どもは成長が著しく、年齢差が大きいので、その分**多様な縦のつながりが期待**できます。

こども園での遊びは、学級の枠を越えて進むことが多く、年齢の異なる子どもと一緒に遊ぶ姿が、園庭のあちらこちらで見られます。大きい子は自然と小さい子の世話をし、小さい子は大きい子の遊びに興味を示したり、あこがれのまなざしを向けたりしながら、そこにはいつの間にか**温かいつながり**ができていきます。



持っていてあげるから、乗ってごらん



これ～

ん、なあに？



手をつないで一緒にいこう！



きれいな色になったよ

もうちょっと入れる？

こども園、小学校、中学校へと

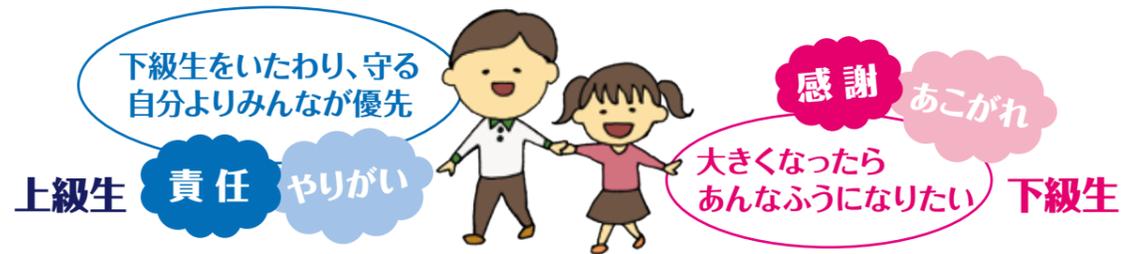
# 成長とともに育っていく「社会性」

## 小学校



まんのう町の6小学校はすべて小規模校※のため、子ども同士の横のかかわりは固定化しがちです。そこで、どの学校も「**縦割り班**」活動を取り入れ、年間を通して計画的に実施しています。また、入学式に6年生が1年生と手をつないで入場したり、委員会活動で上級生が下級生に本の読み聞かせや歯磨き指導を行ったりするなど、**縦のつながりを豊かに**するよう努めています。

※小規模校：小学校では学級数 11～6クラスの学校を言う。



下級生をいたわり、守る自分よりみんなが優先

感謝 あこがれ

上級生 責任 やりがい

大きくなったらあんなふうになりたい 下級生



色別デー

縦割り班で仲よく遊ぶ日



遠足

1年生を守る6年生の手が温かい



長縄の時間

上級生が入るタイミングを教えてくれる



お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝える

6年生を送る会

縦割り班活動をリードする6年生は、先生方に見守られ、支えられながらその責任を果たしていくなかで、やりがいを感じ、自己有用感（人の役に立っている感覚）を高めていきます。

1～5年生は、そんな6年生の姿に学び、自然と同じようなリーダーへと育っていくのです。

## 中学校



中学校で「縦割り」と言えば、やはり部活動です。生徒は、先輩・後輩の関係性のなかで、**同じ目標に向かって互いに切磋琢磨しながら、自分を高めて**いきます。

また、満濃中学校では、玄関など共有スペースの清掃を、縦割り編成したメンバーが行っています。さらにコロナが流行する前は「きょうだい学級」をつくり、協力して運動会の綱引きをしたり、奏風祭に向けて合唱練習に取り組んだりしていました。



今回は、その中から、「委員会活動」と「6年生を送る会」を紹介します。

**委員会活動**

**「つつか歩行」**

「つつか歩行」は「つつか歩行」と「つつか生活目標」が、誰もが右側を正しく歩けるようになるために、運営委員の子どもたちは、つつかに矢印をつけてはどうかと考えました。

矢印をつけた当初は、それを確認しながらつつかを歩いている子の姿を見ることができましたが、効果は長続きしませんでした。

その後、子どもたちの話し合いは続いたようです。



矢印をつけてみたらどうだろう



笑顔であいさつ

四方を自然に囲まれた仲南小学校。休み時間になると、運動場や中庭から元気に遊ぶ子どもたちの笑い声が聞こえてきます。

本校では、仲南地区の未来を担う子どもたちに、創造力と実践力を養い、それらを支える主体性を育むこと、様々な特色ある教育活動を行っています。

**主体性を育む  
教育活動**

**仲南小学校**

仲南小の初夏を彩るツツジ



6年生と過ごした最後のひととき



6年生を送る会



雨の日の楽しみ 読み聞かせ

**「あいさつ運動」**

眠気や暑さ、寒さに負け、元気が出ない朝もありますが、笑顔で元気よくあいさつする習慣を身につけてもらおうと、運営委員会が中心となってあいさつ運動を行いました。

「笑顔であいさつをすれば、笑顔であいさつする人が増えるのではないか」と考え、それを実践すると、元気にあいさつできる子が増えてきました。

**「読み聞かせ」**

図書委員会が中心となり、雨の日を中心に「読み聞かせ」を行いました。

はじめは、本を横から見て読むことに苦戦していましたが、回数を重ねることに上手になっていきました。

聞く側だけでなく、読み聞かせをした子どもたちも、本の魅力を感じることができたようです。

どんなに困難な状況にあっても、アイデアと工夫しだいで乗り越えることができる——制限のある中で前向きに取り組み子どもたちの姿に、たくましさを感じました。また、創造力を育むこともできたように思います。

仲南小学校では、全校生を8色のグループに分け、年間を通じて10回程度、グループで遊ぶ異学年交流の時間もあります。今年度は、これらの活動にどんなアイデアが生まれるのでしょうか。とても楽しみです。

四条こども園では、「子どもの「やってみたい」があふれる園をめざし、子どもの心の動きや遊びの過程を丁寧に見守っています。子どもの声を聴くことを意識してかわり、子ども自身が創る生活を大切にしています。」

**大好きな場所「絵本コーナー」がリニューアルオープン!!**

子どもたちは、絵本が大好きです。月1回の学校司書の読み聞かせや地域の「あめんぼさんのおはなし会」は、楽しみの一つです。また、週末には、玄関の絵本コーナーからお気に入りの絵本を選んで持ち帰り、家族と楽しむことを心待ちにしています。

絵本コーナーがある玄関からは小学校がよく見え、「おおきくなったら、行かんのだら」

「おにいちゃん、勉強しているかな?」

「おにいちゃん、勉強しているかな?」

憧れを抱きながら外を眺めている姿があります。

そんな絵本コーナーに、ソファがやってきました。友だちと並んで絵本を楽しんだり、くつろいだり、ほっこりした時間を過ごせるこの場所は、今ではすっかり子どもたちのお気に入りです。

また、時々お客様が来られて話をする部屋があります。その小さな空間も、子どもたちのお気に入りの場所です。昼下がりのひととき、ここで先生や友だちと絵本を読んで過ごします。また、友だちと喧嘩をしてみました。時には、一人で好きな絵本を読んだり木のおもちゃで遊んだりして気持ちを立て直し、クラスへと帰っていきます。



お気に入りの絵本コーナー

お客様がいらしたときには親しみをもちて出迎え、気持ちよく部屋を譲るなど、お客様を気遣うやさしさも育っています。

**触れて 感じて ...  
友だちと創る まいにち!**

**四条こども園**



3学期になると、5歳児は小学校への期待の高まりとともに、自分たちがいなくなつたらどうなるの?と、こども園の心配もしてくれず、4歳児はいよいよ5歳児になる!と張り切りつつ、できるかなという不安もあります。

今年度はコロナ情勢がますます厳しくなり、異年齢での活動も制限せざるを得なくなりました。そこで、進級を不安に思う子どもたちと先生と一緒に考えて実現したのが、「iPadを使った交流!ひらめきからのやってみよう」です。



あめんぼさんのおはなし会

こども園が「子どもたちのこども園」、「思いがちな場所」になってきていることを実感しています。

**iPadを使おう!**

4歳児から出した「知りたことリスト」に、5歳児が映像で答えます。4歳児は友だちと一緒に、その映像を見て、やってみようとしてチャレンジし、自分たちの活動へとつなげていきます。

子どもから子どもへ情報を伝える便利なツールとして、「iPad」が大活躍。デジタルの大きな魅力を感じる活動となりました。

コロナ禍からこそ生まれたい活動だとも言えます。



iPadでもう一回見よう

**子どもたちに伝えたい 先人の思いや伝統文化**

**昔話や絵本から、遊びや劇までへ**

子どもたちは、季節の節目や暮らしの知恵を、絵本や遊び、行事などを通して知り、体で感じます。節分には、絵本「鬼がら」の話から遊びが展開し、公民館長からいただいた「厄除け守り」を必死に握りしめて、姿の見えない鬼と戦いました。



鬼は外 豆玉入れ!



鬼のぬけがら発見!!



守ってくれるはず

また、昔話や絵本は、自分の経験と結びつけながら想像したことを、表現して楽しむこともできます。

「王様と九人のきょうだい」の話も、想像を膨らませながら創作劇ごっこを楽しみました。その中で、子どもたちは、体をしっかり動かす運動表現、背景や道具、衣装を作る造形遊び、セリフを考え、なりきって表現する言葉のやりとりなど、たくさんこのことを経験しました。さらに、一人一人が知恵を働かせ、試行錯誤しながらみんなで力を合わせてつくり上げたからこそ楽しかったと気づいていくのです。

私たちは、このような子どもの育ちを温かく見守り支えることのできる保育者でありたいと思っています。

「今年の節分、ホームページを何回も見ました」保護者から嬉しい言葉をいただきました。「コロナ禍でも、子どもの姿を伝えることができるホームページを今後も充実し、保護者や地域の方々にも子どもの育ちを伝えていきたいと思っています。」四条こども園ホームページで検索してほしいですね。

## “あたりまえ”をゆるめる

いきなりですが…

『私たちはみんな、自分が思っている以上に能力があり、価値があります！』

このことをすんなり受け入れられたなら、それはとても素敵なことです。事実そうなんです。でも、「そんなことないわ…」と思いがちじゃないですか？

これには、人はうまくいかないことを悪いことだと受け止めやすい思考のからくりが影響しています。また、やれていること・できていることを、他者や世間の評価に照らして判断する傾向があるので、「まだまだ…」とか、「これくらいできて“あたりまえ”と、さらに自分に負荷をかけたり、こんなじゃだめだと自己嫌悪に陥ったりしがちです。

そんなときは、ぜひとも「ま、えっか。」とつぶやいてみてください。意識して、声に出して言うのがポイントです。そうすれば脳がそれをキャッチして、OKのサインとして受け止めます。自分を認める、とか、許す、とかいうとちょっと難しく感じがちですが、自分の中の“あたりまえ”の感覚を「ま、えっか。」のつぶやきでゆるめる…

これならちょっとできそうじゃないですか？

ところでみなさん、“あたりまえ”の反対をご存知ですか？  
有るのが難しい⇒有り難い、そう！“ありがたい”です。あたりまえの感覚がゆるんだその先で、ありがたいと気づけることがひとつ、ふたつ、増えていくといいですね。



スクールソーシャルワーカー 武川 咲子

## 第17回 新学期が元気にスタート!!

～コロナなんか吹き飛ばせ～

4月。こども園や学校では、元気に新学期がスタートしました。依然としてコロナ感染の心配が残る中ですが、子どもたちとともに元気にスタートを切った先生たちは、コロナに負けず、この1年を大事に、楽しく過ごしていこうと考えているようです。



### 「コロナ禍でも変わらないもの」

今年度は5歳児の担任になりました。自然豊かな環境の中で毎日、子どもたちと楽しく過ごしています。その一方、コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、今も日々、職員と話し合いながら子どもたちが安全に過ごせるよう工夫しています。

4月に入り、「今日から年長組さん！」と目を輝かせて登園してきた子どもたち。戸外遊びの時間に、Aちゃんがお店屋さんごっこをしようとした「ぐりぐりハウス（木でできた家）」では、すでに数名の子どもたちが遊んでいました。それを見て「広いところでお店屋さんしたほうがええな」と、ハウスの横に移動してスープを作りだしたAちゃん。鍋のスープを何度もお玉で返し、「あつたかくならなあ」とつぶやきました。私は、そばで「そうやなあ。どうしたらあたたかくなるかな」と見守っていました。



その日は、とてもいい天気。「あー太陽にあたためてもらおう」と、太陽がスープを回し続けたAちゃんが、「せんせい！触ってみて！あつたかくなってる！」と驚きと嬉しさの表情で伝えてくれたのです。お玉ですくったスープは、鍋の中のスープと比べると少しあたたかくなっていて、驚きました。Aちゃんに「ほんとやーすごいなあ」と声を掛けると、「たぶん、お玉のスープのほうが太陽に近づいてたから、あつたかくなったんやな」と自信満々に答えてくれました。

仲南こども園

保育教諭

堀田 千晶

### かがやく子どもたちと 小さなうれしさを大切に

だんだん当たり前になってきたマスク姿。つい、うんざりしてしまうことはありませんか。同じ方向を向いて食べる静かな給食、友だちと会話する時間の限られた授業。子どもたちも私たち教師も学校生活の中で、正直、辟易することもあります。

しかし、そんな中でも毎日キラキラしているのが子どもたちです。どの学年の子どもたちも顔が半分かかっていることを気にしていません。授業中、短い時間でも笑顔で話し合ったり、運動場で元気よく遊んだりしています。

高学年の子どもたちは、できなくなった遠足の代わりとして、新しく入学した1年生と2～6年生が仲良くなるために、思い出に残るイベントをしようと考えてくれています。自分たちの力で全校生のために学校を盛り上げていこうとするその姿は、本当に輝いています。

また、私のクラスでは、子どもたちと一緒に、うれしかったことを毎日1つずつ見つけています。

「弟とお母さんといっしょに学校に行けてうれしかったです」「友だちからいっぱい『ありがとう』と言われたことがうれしかったです」「夕方に空を見ると紫色になっていたのできれいでした。明日も楽しみです」「家でハンバーグを作ったことです」などなど。子どもたちは、毎日の生活の中からおもしろかったことを見つけているのが上手なあと感心させられます。



子どもたちの見つけたことは、当たり前に見えることかもしれませんが、しかし、毎日の生活の中から小さなうれしさを少しずつ見つけていくことで、「コロナ禍での悶々とした気持ち」が晴れていくのではないのでしょうか。

みなさんも、小さなことでも毎日のうれしかったことを見つけてみてください。私はこの記事を通して、子どもたちのすばらしさをみなさんに知っていただき、うれしいです。

長庚小学校

教諭

横田 航一

## おしらせ

まんのう町教育支援機構

少年育成センター『らいむ』  
所長が変わりました



こんにちは。このたび、少年育成センター所長を拝命いたしました三好茂です。前任地の仲南公民館では、地域の方々の温かいお力添えもあり、10年間、研鑽の日々を送ることができました。そう、決して、感謝というひとことでは言い表せませんが…

これからは、少年たちの健全な育成を図るため、様々な活動を通して、保護者、学校、地域が一体となってサポートできるよう体制を整備してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



何が見えるかな？



じゃ〜んぶ!



今月の一枚

ずっしり…

四条こども園

## 編集後記

ウサギ君の目からこぼれ落ちる一粒の涙。そんなウサギ君にそっと寄り添う森の仲間たち。「元気を出して…」そんな声まで聞こえてくるようです。

小さなちいさな葉っぱの中に優しさ溢れる世界を創り出すのは、葉っぱ切り絵作家のリトさん。彼は、少し前まで、会社勤めをするサラリーマンだったそうです。それは上司に叱られてばかりの苦しい日々。

子どもの頃から、集中すると周りが見えなくなるほど没頭してしまうというリトさん。ちょうどその頃、病院でADHD（注意欠陥・多動性障害）の診断を受け、自分の過剰な集中力は、ADHDの特性だと知りました。ゆっくりと時間をかけて一つのことだけに集中すれば、誰よりも頑張れる—そんなリトさんが、会社を辞めた後、自分の得意を伸ばす生き方を模索する中でようやくたどり着いたのが、「葉っぱの切り絵」だったのです。

「あの時『ADHD』という言葉に出会っていなかったら、きっとこんな人生の転機には巡り会わなかった」と、リトさんは初めての作品集『いつでも君のそばにいる』のあとがきで述べています。「自分を知る」ことは簡単そ



(※出典は下に記載)

うで難しく、年月を必要とするものなのですね。

人間がすごいのは、持っている素晴らしい力が一人一人違うことだ—そう母校の子どもたちに語りかけたのは、動物文学の作家として知られる椋鳩十（むく はとじゅう）さん。動物も素晴らしい力を持っているが、それはみんな同じ。例えば、ウサギは、よく聞こえる耳で危険を察知し、自慢の後ろ足を素早く遠くへ逃げることができる。それは、ウサギならみんなできる。コウモリは超音波で障害物を感知し、すいすいと飛ぶことができる。どのコウモリも。

けれども、人間のそれは一人一人違っており、しかも、まだ見えていないものまでである。椋鳩十さん自身も、子どもの頃の作文の成績はいつも3段階（甲・乙・丙）の一番下（丙）だったと言います。そんな彼が、数々の賞を受賞する児童文学作家になったのですから、人間の力とは分からないものです。

子どもは、日々の様々な「人」「もの」「こと」との出会いを通して少しずつ自分を知り、自分が持っているかもしれない力に気づいていくのだと思います。そんな子どもたちのありのままを見守り、受け止め、まだ見えていない力もあるだろうことを心に留めて応援し続けることが、私たち大人の務めではないかと思ひます。

(Y. T)

※『いつでも君のそばにいる』講談社 2021.5.18  
著者：リト@葉っぱ切り絵

表紙絵：東山 正章（元満濃中学校長）

次号予告  
(8月1日発行)

特集

園・学校ウォッチング

校歌のひみつ

高篠小学校・高篠こども園